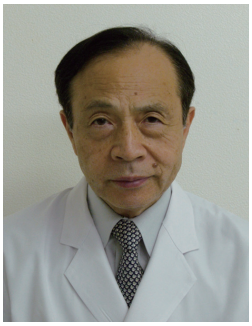
望（のぞみ）クリニック



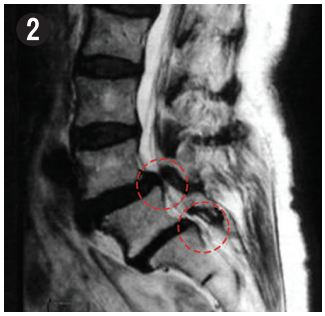
院　長

住田 憲是

すみた・かずよし●痛みの治療に興味を持ち岐阜薬科大学を卒業するも、薬のみの治療に限界を感じる。東邦大学医学部卒業後、日本整形外科学会認定整形外科専門医となり、手術、ブロック等、最新の治療を駆使するも良くならない痛みの多さに現在の整形外科に不足があると実感する。1986年にAKA-博田法に出会い、これこそがその不足を補うものと思い、以後今日までAKAを中心に痛みの治療に特化して望クリニックで診療を行う。東邦大学医学部客員講師

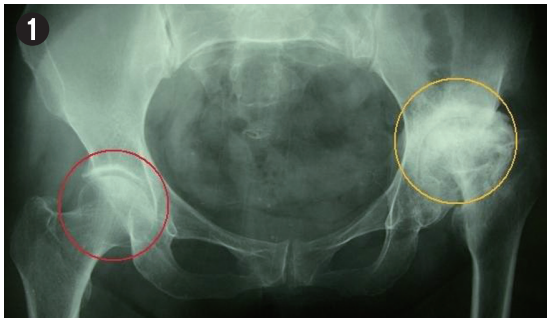
狭窄症、すべり症、ヘルニア、変形性股・膝関節症の痛み、シビレにAKA-博田法

なかなか治らない整形外科の痛み・シビレを手術や注射をせずに根本から治療する



2

すべり症で狭窄症の75歳女性のMRI。この方は3回のAKAで痛みが治り、手術が不要となる。良くなった後もすべりや狭窄はそのままであったことから、それらは痛みとは関係ないといえる。痛みの本当の原因は関節機能障害であったと考えられる。この場合、手術による改善は見込めない。手術の必要性を見極める上でAKAを受診する重要性を示す症例であった。



1

変形はそのままでも痛みが消えることがある。
変形性股関節症の方をAKAで治療した後のレントゲン。股関節の痛みでほとんど歩けなかった。赤に比べ、痛む黄色の方が変形は進んでいる。現在も変形は残っているが、2ヶ月に1回のAKAで日常生活での痛みはほぼない。

狭窄症・ヘルニア・すべり症・変形性関節症といわれたけど…

整形外科ではレントゲンやMRIで狭窄症・ヘルニア・すべり症・関節の変形（以下、まとめて「異常」）が写ると、それを痛みやシビレの原因と考えてしまいがちです。実際に「異常」は写っているし、医師もこのように説明します。患者さんの中には「もう治らないのでは？」「いつかは手術しかないのかな？」など不安になる方もいるでしょう。しかし、こういった痛みやシビレの多くがAKA-博田法（以下、AKA）により効果が見込めるのです。

レントゲンやMRIに写る「異常」のほとんどは実は痛みやシビレの原因ではない

当院が専門で行っているAKAとは関節の中の微細な動きの異常（これを関節機能障害という）を治療する手技療法です。AKAで背骨にある関節を中心に機能障害を治療するとレントゲンやMRIに写る「異常」とは関係なくさまざまな部位の痛み、シビレ、コリ等の症状が良くなることが多いのです。

このように狭窄、ヘルニア、すべり症、関節の変形等が原因と診断されても、痛みやシビレの本当の原因は関節機能障害であることが多いのです。

痛みやシビレが良くなり手術が不要になることも

当院には手術が必要と診断されたり、手術をしたのに良くならなかった方が多数来院しています。そして、その多くはAKAにより改善しています。

例えば、写真1の変形性股関節症は軟骨が擦り減って変形が顕著です。写真2の脊柱管狭窄症の方も神経の通り道（脊柱管）が狭くなっています。

いずれも手術が必要と診断されていましたが、AKAにより関節機能障害を治療したところ痛みやシビレが著しく改善しています。このように手術をせずに良くなるケースは決してまれではありません。

手術をする前に、また手術で治らなかったとあきらめるのではなく、AKAを受診してみると良いでしょう。

AKAは熟練者に受診を

AKAは手で関節を軽く押して正常に動くようにする治療法です。治療時に痛みを伴うことは無く高齢者でも受診できます。一見簡単に見えますが、難しい外科手術と同様、熟練度により効果に差があります。未熟な技術では正確な診断・治療が出来ず悪化することもあります。AKAは熟練者に受診すると良いでしょう。当院は痛み・シビレ治療の最後の砦として27年間（1986年～2013年1月時点）で3万人以上の症例があります。

個々の疾患の詳しい内容についてはホームページをご覧下さい。

INFORMATION

診療科目:整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科
診療時間:8:30～12:30/14:30～17:30
休 診 日:日・月

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷2-4-1
TEL.03-3986-7889 完全予約制※自費診療
http://www.nozomi-clinic-japan.com/

院長　住田　憲是
東邦大学医学部客員講師

※AKAは自費診療です。初診時は初診料11,025円＋治療費9,450円が掛かります。治療は月に1～2回行います。